

育成だより

第9号

 平成4年10月1日
 貝塚中学校区
 青少年育成委員会

平成四年度重点事業

健全育成標語看板を各町内に

貝塚中学校全校生徒に募集・厳選

今年度は、子ども達に標語を募り、標語看板の作製・設置を育成委員会の重点事業としました。標語看板については、六年前に設置したものがありますが、地域の青少年の健全育成に大いに貢献しているのはご承知の通りです。この看板も、標語を作った子ども達も成人式を迎えた者も多く、字が薄くなったものや、破損したものもあり、この際に取り替えることにしました。今回は数を増やして、小型で設置しやすくし、各町内に一つと、駅、各小・中学校等に計

三十本を設置する予定です。

製作費は、既にご協力をいただいている各町内・自治会からの援助金等を充てます。

標語は、貝塚中学校の全校生徒の作品の中から、総務会、拡大理事會により三十点の入賞作品を選出しております。なお、子ども達に更に非行防止等への関心を高めるために、入賞者の表彰を行います。標語看板は、十二月上旬に完成する予定です。この設置につきましては各町内・自治会長さんのご協力をお願いいたします。

第六回サマーキャンプ

貝塚中学校区青少年相談員主催

さる、七月二十三日(木)より一泊二日で貝塚中学校区青少年相談員主催の、第六回サマーキャンプが晴天のもと群馬の高原千葉村で行なわれました。

小中学生、四十名余りの参加者は、早朝六時三十分都賀駅前を出発し、一路群馬サイクルスポーツセンターへ向いました。車中、皆ゲーム、歌等で楽しくすごして行きました。

昼食後子供達は、学年の枠をこえた班単位で思い思いのサイクル施設へ飛び出して行きました。六キロのコースへチャレンジした班、変り種自転車で楽しんだ班等、それぞれ街中では味わえない自転車遊びを体験しました。

高原千葉村到着後、温泉で汗を流し、全員で取った夕食は格別の味だった様です。

昼の疲れも見せず、夜は映写

会、体育館で卓球、バスケットボール等元氣一杯遊んでいました。

翌朝、さわやかな目ざめの後、二日目のお楽しみのおリエントリングに全員参加し、各ポイントを採すべく林の中へ散って行きました。体力・時間・暑さとの戦いの中々とゴールに到着した子供達の顔は、達成感で輝いていました。

今後の相談員の企画に、参加、協力宣しくお願い致します。





子供達の笑顔と一言



オリエンテーリング出発前の相談中

●群馬のサイクルスポーツセンターでの自転車遊びとても楽しかった。(女)

●青少年自然の家の体育館でもいっきりに遊んだことが楽しかった。(男)

●オリエンテーリング大変だったけど、皆さんと一緒にゴール出来てうれしかった。(男・女)

●このキャンプが二泊三日ながらもつと良かった。(男)



宿泊地・青少年自然の家で全員集合！



オリエンテーリング表彰式
みんなよくがんばったね！

今回のサマーキャンプ、子供達にとって想い出深いものとなったと思います。

田中育成委員会会長をはじめ、育成会・各小中学校の先生方の協力、ありがとうございました。

平成四年度

貝塚中学校区青少年育成委員

千葉市長より委嘱される

〔役員〕

会長 田中 信夫

副会長 高柳 信一

副会長 渡辺 愛

監事 梶原顕五郎

監事 永嶋 實

〔専門部〕

〔総務部会〕

会長 田中・信夫(自治会役員)

副会長 高柳 信一(自治会役員)

副会長 渡辺 愛(民生児童委員)

榛沢 芳雄(学識経験者)

堀 柳太郎(自治会役員)

新留 誠(P T A)

鈴木 幸男(学校教職員)

安藤 操(学校教職員)

鈴木良太郎(学校教職員)

事務局 茂呂 勇(学校教職員)

会計 森 靖男(学校教職員)

〔環境対策部会〕

部長 佐久間武(学校教職員)

副部長 加山 貞子(自治会役員)

井桁 静男(自治会役員)

江村善五郎(自治会役員)

本間 泰夫(自治会役員)

高橋 孝文(自治会役員)

豊田 正夫(自治会役員)

千脇 操(学識経験者)

多田きよ子(学識経験者)

鶴田 義男(体育指導員)

中川 秀之(体育指導員)

鈴木 邦子(子ども会)

相馬美智子(子ども会)

五十嵐京子(P T A)

〔非行対策部会〕

部長 梶原顕五郎(自治会役員)

副部長 高橋 房枝(青少年補導員)

永嶋 實(自治会役員)

榎本 晃(自治会役員)

本橋 信義(自治会役員)

岸本 一誠(学識経験者)

柳原 和平(学識経験者)

戸村 一美(青少年相談員)

若竹 尚美(青少年相談員)

岡田 敬子(保護司)

新留 誠(P T A)

石口 祐子(P T A)

遠藤 祐之(学校教職員)

安藤 寿(学校教職員)

〔健全育成部会〕

部長 関谷 亮介(自治会役員)

副部長 湯浅 利美(自治会役員)

副部長 鈴木美屋子(学識経験者)

重田 耕吾(自治会役員)

石橋 作治(自治会役員)

岩田 三郎(自治会役員)

大塚 正秋(学識経験者)

成毛 京子(子ども会)

小畑 清子(青少年補導員)

吉岡 順子(学校教職員)

平田きよ子(学校教職員)

日野 敬子(P T A)

〔レクリエーション部会〕

部長 関塚 昭男(自治会役員)

副部長 内山 英昭(自治会役員)

井上 公熊(自治会役員)

和田加代子(自治会役員)

村井 博(体育指導員)

本木 信夫(体育指導員)

戸村 直人(P T A)

三輪佐知子(青少年相談員)

日置しず子(P T A)

〔福祉部会〕

部長 野村 啓二(自治会役員)

副部長 豊田 新六(民生児童委員)

飯田 貞介(民生児童委員)

戸村 山三(民生児童委員)

佐川 君枝(民生児童委員)

高山 光代(民生児童委員)

藤原 令迪(民生児童委員)

〔交通安全対策部会〕

部長 戸村 直彦(学識経験者)

副部長 鈴木 勝(自治会役員)

御園生章(自治会役員)

原島福二郎(民生児童委員)

中島 邦明(P T A)

安藤 征子(P T A)

〔広報部会〕

部長 田中 桂子(青少年補導員)

副部長 工藤 愛子(母子推進委員)

中村八重子(青少年相談員)

林 和子(青少年相談員)

田中 研一(P T A)

森 靖男(学校教職員)

〔顧問〕

増田 栄司(県議会議員)

能勢 英惟(県議会議員)

松井 孝安(市議会議員)

千葉 通子(市議会議員)

小川 善之(市議会議員)

石橋 毅(市議会議員)

佐々木久昭(市議会議員)

田中 信行(市議会議員)

本年度は専門部の活動の活発化をはかるため大幅な編成替が行なわれました。地域の方々のご協力をお願いいたします。

有害図書追放を推進

青少年育成東部ブロック研修大会

平成三年

十一月九日、

貝塚中学校
に於て、千

葉市青少年

育成委員会

東部ブロッ

ク研修大会

が開かれま

した。

大会には、

加曾利、更科、若松、貝塚など七中

学校区の父母・自治会・青少年育成

委員約四百五〇人が集まりました。

青少年を取り巻く社会環境の悪

害問題について、地域ぐるみの活

動・成果を話し合い、青少年の健全

育成をめざしお互いの協力を確認

しました。

来賓の千葉市教育委員会青少年

課 松本哲哉課長は、

● 学校・親・地域から見えない

所での子供の遊びが増えている。



● 青少年の問題は源を考えると

大人の問題でもある。皆の意識を

結集し、子供の幸を考えましよう

と結ばれました。

貝塚中学校区青少年育成委員会

田中信夫会長は、

● 子供に悪影響を与える図書類

等自動販売機の追放運動の推進

● シンナー等有機溶剤が青少年

の手に入らないような環境作り

● 青少年に有害なダイヤル情報

の追放運動について提案

● 十月二

十七日深夜、

近隣で女子

中学生の誘

拐事件があ

ったが、児

童生徒の外

泊や、夜間

外出につい

ても考えて

ほしいと要



望された。

また「家庭の役割を考える」と

の演題で、県専修学校・各種学校

協会会長 御園生隆氏の講演も行

なわれました。「教育の土台は、

よい家庭から、家庭は和らぎと、

安らぎの場である。」と強調され

ました。



平成三年度育成委員会

専門部活動報告

〔福祉部会〕

夏休み及び冬休みを学校と各地
域の民生委員と提携して左記の活
動を実施しました。

● 夏休み

三名ずつ二班に分れて各町内会
盆踊りの見廻りと要保護世帯夏期

慰問金配布のときに生徒の健康気
使い、生活の様子を観察した。

● 冬休み

各地域の民生委員の方々に機会
ある度に生徒又母子家庭・父子家
庭・独居老人の方に励ましの声を
かける様御願した。 飯田 貞介

【非行対策部】

非行対策部の一番大きな活動である講演会を、今年も実施しました。今回は『子供達を非行から守る講演と映画の集い』と題し、八月一日に、六十余名の方々に参加して頂き、千葉東署の防犯課長を講師として、少年非行の実態や、その対策について講演して頂きました。今年は最後に懇談会を設けて警察の方との活発な意見の交換を行なったりして、大変有意義な講演会であったと思います。

そして夏休み・冬休みには、学区のパトロールを三地区に分れて実施しました。特にゲームセンタ

ー・カラオケボックス・公園等を重点的に見廻りました。

戸村 直人

【健全育成部】

夏休み及び冬休みを重点に学区内の青少年のたまり場、盆踊り会場を先生方・PTAの役員の皆様と合同で左記の通り活動を実施致しました。

七月二十六日(金) 時間はいずれも午後四時～五時まで。

八月二十三日(金)

十二月二十六日(木)

一月七日(火)

実施方法につきましては、桜木町方面・都賀方面・西都賀方面を三班にわかれてパチンコ店・ゲームセンター・カラオケボックス・公園等たまり場と見られる個所を巡検を実施致しました。その結果全体的には良好のようでした。

野村 啓二

【環境対策部会】

環境対策部として大事なことは犯罪防止上の対策ではないかと思

います。
都賀方面からの通学路が狭いこと・冬の日照時間が短い時は街路灯が少く通学路が暗く危険ではな

かるうかと見受けられる状況であります。通学路の拡張と、街路灯の増設をし、安心して通学できる態勢作りをしたいものと思います。

数年前からの課題である「青少年をシンナーから守ろう」を合言葉に、諸団体と連携をとりながら「シンナー追放ポスター」等を作成し、町内各所に掲示して、地域の方々にも呼びかけ、この活動に取り組んでおります。

どうぞ、シンナー等有機溶剤が、青少年の手に入らないような環境づくりに、皆様方のご協力を心からお願ひ致します。

大塚 正秋

【交通安全対策部会】

「歩行者の安全は運転手のマナーにあり」と言うことで今年度も貝塚中学校地区の地域の人々を対象に特別講習会を催しました。講師のお話、映画を見るたびに事故はほんの少しの気の緩みからであることに気付かされます。ツバメの速さ、コウモリのテレパシーを兼ね備えていない人間には瞬時の機敏さは取れないことを自覚して運転に臨まねばなりません。あの時、運転手は教習所で学んだ事を

忘れずにいたらと云うことが多く、初心者の方の時の気持を持続しなければと思います。

家族と同乗する機会の多い生徒さん方に模範の運転を見せて上げて下さい。交通安全対策委員一同皆々様の交通安全を祈っております。

【レクリエーション部】

榛沢 芳雄

毎年、恒例になっていきますグラウンドゴルフ大会を、八月十八日(日)午前八時三〇分より貝塚中学校庭で今年度は地域の方々の多数の参加をえて行なわれました。あまり激しい運動でもなく、手軽にできるので、参加者の皆さんには大変好評のうちに終わることができました。

二月二十二日(土)、二十三日(日)には、伊香保方面へ一泊二日の親睦研修旅行を実施いたしました。残雪を見ながらの寒い季節でした。

けれど、バスの中や、皆さんの気持ちは非常に暖かく和やかに過ごせました。

今後共、多数の方々の参加をお待ちしておりますので、よろしくお願ひいたします。 高橋 房枝





貝塚中学校長

鈴木良太郎

学校も二学期より、月の第二土曜日が休日になります。

一時期、今の子供達の状況を著の握れない子供とか、鉛筆を削れない子供などと話題にしましたが、これ等の状況を生み出してきた原因に、社会の変化にともなう子供達の生活時間の偏りがあります。

特に、家庭や地域での生活体験や地域行事への参加時間が大人を含め、極端に少なくなったことが指摘されています。

心豊かな、地域に愛着を持つ子供達の成長のために、この休日の意義をふまえ、子供達が地域で安心して過ごせる機会や場所の確保が必要です。PTAを始め、育成委員会および地域の方々の一層の協力をお願いします。



北貝塚小学校長

安藤 操

三位一体の子育てを

わが国の教育の歴史では、明治

以来「学校依存型」(子どものことは、すべて学校におまかせ)が主流でした。

やっと最近、家庭教育の大切さと、地域ぐるみの健全育成の価値が見なおされてまいりました。家庭・地域・学校がそれぞれの固有の教育力を発揮し、その三者の接点で手をたずさえ合うということです。家庭では基本的なしつけを、地域では子ども同士のつき合いの仕方を、学校では基本となる学力を、そして三者でもって、深いモラルの教育を。

桜木小学校長
鈴木 幸男

いっしょに食事をして

三学期になって、私は六年生といっしょに食事をする機会を得ました。

子ども達、一人一人の夢を開ける楽しみができたのです。

「家の人のあとをつぎたい」

「自分の大好きなスポーツや芸能で生きたい」

「ふつうのサラリーマンがよい」など、心はずみました。

一人一人が、自分の長所と結びつけて、将来を設計しているのに感心しました。

だれにも負けない、光り輝くものにしてほしいという願いでいっぱいになりました。

前貝塚中学校長
藤井 忠

若い力を生かす

学校週五日制に関して市教育委員が市内小中学生千名に「休みの土曜日をどのように過ごすか」の設問を含むアンケートを実施したところ約八〇%が「家でゆっくり過ごす」

「家や家の近くで遊ぶ」と答えており「学習塾に行く」は小中共約五%になっている。子ども達の意識の上では「塾や習い事はもう十分」と考えている事が伺える。一方、公的施設での活動にはコンピュータやコンサートへの人気が高く、積極的に地域とかかわる意欲に乏しい結果がでている。子ども達の眼を地域に向けさせる為に、

地域の方々が人生の先達としてのその知力を生かし、魅力ある地域活動を促進する中に二〇才代の若い

力を組織化して活性化を図る事も一方策ではないかと思う。

前北貝塚小学校長
平野 静夫

青少年育成委員会のご発展をお祈りいたします。

わずか二年間ではありましたが、北貝塚小学校在職中はいろいろとお世話になりました。地域の方々や仲間の先生方、子供たちに支えられて無事に教職を終え、現在は千葉市青少年補導センターの嘱託として、青少年の電話相談を担当しております。

学校のことを思い出しますと、学区は、青少年育成委員会が悪書追放の実績をもち、交通安全や危険防止などの諸活動を田中会長を中心に常時続けている学区でありました。

子供たちは、そういう地域の土壌に育まれてのびのびと健康に育てられていました。家庭でちゃんと暮らされて、学校の生活でも個人の生活でも、あたりまえのことがあたりまえにできる子供たちでした。



ふれあい募金

貝塚中PTA会長

高柳 啓一

平成三年度、貝塚中PTA活動スローガンは、「人と人とのふれ愛を大切に」で、一年間活動して、各役員・各委員の方々による努力で諸行事が実行されました。そして同じ目的に向い、より一層、会員相互のふれ愛ができ、一年間が過ぎたように思います。

新年度最初の大きな行事で、バザーがあります。会員皆様方の協力ですばらしいバザーができました。そして、バザーの収益金の一部、また学生達による募金活動によるお金を、雲仙普賢岳の被災者の方に千葉日報を通じて寄付をしました。この活動で保護者と子供達の大きなふれ愛ができたと思います。

ここに、会員の方々、先生方、地域の方々にご協力感謝申し上げます。

親と子の

ふれあい音楽会

桜木小PTA副会長

中島 邦明

本年度は、桜木小後援会の講演会に始まり、市P連第一ブロック講演会、青少年育成委員会の講演会と、短期間のうちに講演会が三回ありました。例年、本校PTAも講演会を行っており計画しておりましたが、講演会ばかり続きだったので計画変更することになりました。いろいろ案が出ましたが、父兄にプロ・ギタリストの方がおりましたので音楽会と言うことになり、日曜参観終了後に開催することとし、『親と子のふれあい音楽会』となりました。



北貝塚小 ふれあい広場

ジャズ『A列車で行こう』で始まり、ジャズを初めて聞く子供達にジャズについて簡単な説明の後『手のひらを太陽に』をジャズにアレンジして演奏をしてくれました。また『一〇一回目のプロポーズ』のテーマ曲『SAY・YES』や『愛は勝つ』等、話題になっていた曲などが演奏されました。全曲終了後、子供達から拍手と共に『アンコール・アンコール』と声がかかるほど盛況に終わりました。準備の段階ではどんな音楽会になるか、どのくらい参加していた

だけるか、評判はどうであるかなど不安でしたが、五〇〇人余りの参加がありアンケートの結果も好評、思い切って計画変更して良い結果が得られました。

ふれあい広場

北貝塚小PTA会長

田中 研一

北貝塚小ではPTA活動の一端として、四年位前から「ふれあい広場」を楽しんでいます。

学年の先生方、保護者の方々、子供達が楽しく、心のふれあい・コミュニケーションをはかることを目的としています。

各学年ごとに、学年学級委員が中心となり、校長先生はじめ諸先生方のご協力をいただき経費も予算化して行なっています。

今年度も、六年生が仲良し農園にて、一年がかりで育てたサツマイモの会食をしたり、林間学校のビデオを見たり、フォークダンスをしたり、楽しい日を過ごしました。

六年生も、収穫までの苦勞も「ふれあい広場」の一日で楽しい思い出にかわった事と思われれます。



先人の言葉

前生徒指導 皆川 隆

小肉 多菜 小塩 多酢
 小糖 多果 小食 多粗
 小衣 多浴 小車 多歩
 小煩 多眠 小忿 多笑
 小言 多行 小慾 多施

江戸時代中期の俳人横井也有の言葉です。現代の我々が肝に銘じなければならぬ言葉ですね。

フランスの啓蒙思想家ルソーは二五〇年前こんな事を言ったそうです。「あなたの子供を不幸にする事は簡単だ。何でも欲しい物を与える事だ。」

横井也有やルソーの言葉は現代や近い将来の子育てや教育に、どこかで反映させなくてはなりません。

貝塚中学校

生徒指導 遠藤 祐之

貝塚中学が創立して、来年はいよいよ10年目を迎える。本校へ赴

任してから7年、その間3回卒業生を送り、現在に至っている。時折、地域を歩いていると、なつかしい顔に出会い、声をかけることもしばしば。また、高校卒業後の進路について報告しに来校する卒業生も多く、その際、いろいろと昔話に花が咲く。その中で彼等が口にするのは、「中学時代は良かった。」「中学校の先生方はよく面倒をみてくれた、ありがたい。」などなど、時代が移り、職員も毎年変わってゆく中、いつまでも「我が良き母校、貝塚中」であるために、我々は頑張らねばならないと思う。

今年度の活動から

青少年補導員 小畑 清子

みなさん、こんにちわ、補導員になって、たくさんの人と出会いたくさんのお話を学ばせていただいたております。

私達補導員は、中心街、地域、列車補導を行い、日帰り、一泊研修では、各施設訪問し感慨深く反省させられております。

委嘱後、補導前の研修、ブロック研修、関係機関団体との交流、他市との合同研修、県補導員大会、

青少年健全推進大会、非行から守る県民大会などに参加、育成会においては諸行事に参加、自己研鑽に努めております。

政令指定都市に向けて、各地区分室における補導もすすみ、九月、十二月・三月に月四回、朝昼夜巡回補導しております。今後共、皆様の御協力よろしくお願い致します。

相談員のキャンプを振り返って

青少年相談委員 戸村 一美

昭和61年ある知人に青少年相談員をやってくれないか、といきなり言われた。私自身聞いたことが無い、ハア何ですかそれノと思っていると同時にびっくり返事もしてないまま気がついてみると、相談員として面識がない人達と話していた。自分の相談員としての出だしはそんな程度であった。しかも貝塚中学区に相談員誕生の第1期目(全体では9期目)である。今考えると会長であった伊藤さんはさぞ大変だっただろうと思う。しかしながらスタッフも素晴らし、特に夏のキャンプの頃になると、しばしば夜遅くまで何回も打ち合わせが繰り返される。当然主

婦の立場の人が半分以上いたにもかかわらず嫌な顔一つせず、皆さんまるで溺愛するかのようには子供達に向けるパワーに目を輝かせていた。しかも、誰が決める訳でもないのにその担当とか役が決まるのである。そんな打ち合わせが何日も続くある夜、主婦である相談員数人に聞いてみた、「いつも何時に起きるの」だいたい5時頃と答えたのです、しかもいずれの人も家庭のほかに職を持っている。ここまでするのはなかなか容易ではないはずである。やはり素晴らしい人達である。そして相談員のメンバーが変わった(第10期)現在もそのパワーは生きている。お陰様でキャンプは6回、300人前後の子供達とふれあいを共にしてきたが、大した怪我も無く、皆無事で元氣良く帰ってきている。そしてキャンプから帰る頃には相談員の顔には明らかに疲れの色が出ているのですが、子供達と思い出話をしている姿は、まるでハッピーエピソードで終わるファミリー映画のラストシーンのように笑顔がもれている。「キャンプやってよかったなあー」と思うのである。